



第 4 図(B). 2017 年度採取土壌を用いた土壌細菌分画の呼吸活性(E) , (F) & 施肥窒素量(G) を説明変数, はえぬきの収量を目的変数とした重回帰分析 (外れ値 1 点(8-C)を除く).

$$\text{収量} = -10.8923 \times (E) + 2.0154 \times (F) + 23.1780 \times (G) + 419.7442$$

外れ値 : 8-C, データ数 15, 寄与率 0.808, 重相関係数(R2) 0.899, 自由度調整済 R2 0.870, 残差正規性の SW 検定確率 0.7730, 残渣の正規性ありとみなす. 重回帰式の検定利用可能とみなす. 重回帰式の有効性の検定 F 検定値 15.4697, 自由度 3, 11. 確率値 0.0003, 重回帰式は有効であるといえる. AIC 147.848, DW 比 1.220, VIF : (E) ;1.168, (F) ;1.036, (G) ;1.181, 標準化係数 : (E) ; -0.3259, (F) ;0.4630, (G) ;0.4984